

政策委員会情報交流会 (政策フォーラム)について

連合会政策委員会は、10月20日に第3回政策委員会情報交流会（政策フォーラム）を都内で開催しました。

連合会政策委員会では、担当分野ごとの政策委員が連合会を代表して各省庁等への要望活動や意見表明などを行っています。

こうした政策委員が一堂に会して連合会の政策課題を幅広く討議・検討するとともに委員相互の情報・意見交換を行うことを目的として開催しているのです。

第3回となつた今回の情報交流会では、統一テーマを「国家的大災害に備える」に定めました。

高橋政策委員会委員長による開会の挨拶に続いて、明治大学大学院政治経済学研究科特任教授・中林一樹

A photograph of Toshiaki Takahashi, a middle-aged man with short grey hair, wearing a dark suit and white shirt. He is speaking into a silver microphone. A name tag is visible on his left lapel. The background is a plain wall.

10

巨大地震災害からの 減災について

田辺文子・中林樹氏・阿波経済研究所
特任教授

「減災」には広い意味の減災と狭い意味での減災があります。本日は、発災後の対応で直接被害の拡大を防ぐ狭い意味での減災のみならず、耐震化や不燃化など事前に実施して直接被害を軽減する事前防災、そして間接被害の軽減となる被災後の迅速かつ着実な復旧・復興を含めた、災害対策全般で被害を軽減する広義の「減災」を対象とします。

当政策統括官・日原洋文氏による「我が国の防災対策について」の講演が行われました。

講演の後は、地方協会の政策担当者も交えて政策委員相互の活発な意見交換がなされました。

以下に当日の講演概要をご紹介します。

しかし中央防災会議による地震被害想定（2013）によると、南海トラフ地震の陸域型では240万棟の建物被害（うち火災75万棟、津波15万棟）となり、阪神・淡路大震災や東日本大震災とは比べようのない被災状況が想定されています。それは、従来の東海、東南海、南海、あるいはその三連動ではなく、理論的に可能性がある九州の日向灘沖と南海トラフのプレートの先端部も含めた五連動地震を想定したもので、その結果、震度7のエリアは4千平方キロメートルと従来の想定の10倍にも広がると想定しました。

害想定したのですが、それによる最も強い揺れに着目すると、首都圏3600万人の居住地の大部分が震度6強以上の強い揺れになるということでした。しかし、国としては、最も被害規模が大きく、かつ首都機能に大きな影響を与える可能性が高い政府の防災戦略や業務継続計画（BCP）の検討対象の地震として都心南部直下地震を位置づけ、詳細な被害想定を進めました。しかし、都心南部直下地震が次に起きる首都直下地震というわけではありません。

ンも被災し影響を受ける地域が広がります。携帯電話は、基地局の問題により被災直後よりも1日後が大きく障害を受けると想定されています。液状化が起こりやすい低地エリアではライフルラインの影響が長期化します。

なお、超高層ビルでは首都直下地震のみならず南海トラフ地震でも長周期地震動による影響を想定しておかなければいけません。

よく「想定外」と言われますが、それは2種類あります。一つは想定された被害規模を上回る事態の発生、つまり想定外の巨大災害の発生ということです。もう一つの「想定外」は、一人一人に予想もしていなかつた事が発生することです。つまり、自分が被災者になることを想定していなかつた、という想定外です。

第一の想定外は政府や自治体の課題ですが、第二の想定外に対しても私たちが自らの想定外を作らないよう備えることが求められます。私の家族や自宅はどうなるか、私のビルや会社はどうなるか、という自分自身の被害想定が大切なのです。耐震性があつても、高層ビルからも、火災が発生しえることも想定しておかなければなりません。

「災害に強い都市・地域・ビル・住宅」とは、被害を出さない、被害を拡大させない、迅速に復旧、復興するといふ3つの対策を実践して初めてでき

災害時に被害を減らすには自助が大切です。自宅やビルの耐震化、出火防止や不燃化などは、所有者一人一人が自助としての取組みを行わない限り実現しません。誰も代わりにやってくれません。

帰宅困難者対策も自助が基本です。帰宅困難の事態が発生しても、急いで帰宅しなくていい状況を作り出さねばならないのです。帰宅困難を問題にせず人々が落ち着いて都心部に滞留できるように自宅の耐震性を確保し、家族の安全を確保しておくことを帰宅困難者対策の根本なのです。

このような自助の取組みが共助を可能にします。自助で被害を減らして初めて、その人が他人を助けられる。そして、自助に取り組み、共助が可能となつた地域こそが、公助を有効に活用できるのです。

さらに、被害想定から発想する「事前復興のまちづくり」の推進が重要だと私は考えています。わが町の半分が燃えてしまつたとして、どのような街に復興させるのか。それを今から考えておくのです。そこには、現実の東縛に縛られたこれまでのまちづくりではなく、自由な発想が可能となる。その「事前復興」の視点から防災まちづくりや防災ビルづくりの発想を転換してみるのです。被災後に復興で目指すであろうまちづくりやビルづ

びるおんぐ No.328

A portrait of Nakabayashi Katsu, a middle-aged man with dark hair, wearing glasses, a mustache, and a light-colored blazer over a white shirt. He is speaking into a microphone. The background shows a wooden panel wall.

びるちんぐ ● No.328

くりの目標の中にこそ、本来目指すべき防災まちづくりやビルづくりの基本的方向が示されているのではないで

しょうか。

ビル業界においても自己のビルの被害想定を行い厳しくチェックすることが必要であり、どこまでの被害であればテナントが事業を継続できるのか、そのレベルを最小限の目標として取り組むのがビル業界のBCPなのではないかと考えています。そして、そのためには必要なビルの耐震性強化や非常電源の確保、あるいは資器材の備蓄などに取り組んでいただきたいと思います。

我が国の防災対策について

内閣府防災担当政策統括官

日原洋文氏

中央防災会議が想定する大規模地震としては、南海トラフ地震と首都直下地震のほか、日本海溝・千島海溝周辺型地震と中部圏・近畿圏直下地震があります。これらは人的被害の要素が違うので、大規模地震の様相が想像つかないことを含め、それぞれについて適切な対応が必要です。

首都直下地震と南海トラフ地震を比べても、津波が中心の南海トラフ地

震、火災が中心の首都直下地震という違いがあります。

南海トラフ地震では、東日本大震災の17～18倍の被害規模になると想定されます。

津波については、日本海側は海溝がないので大規模な津波はないものの、

明治三陸（地震）、昭和三陸（地震）、チリ沖地震程度のものは堤防で守り、それを超えるものはひたすら避難す

ることが津波対策の基本になっています。

津波対策の特別措置法として南海トラフ地震防災対策特別措置法があり、地震防災対策を推進すべき「推進地域」として1都2府26県707市町村を定めています。また、津波

到達時間が短いのが日本海側の特徴です。そういう意味で、日本海側も十分警戒してほしいと思います。

避難対策を強化すべき「特別強化地域」を1都13県139市町村で定めています。

この推進地域内で30センチ以上の浸水が想定される区域では「南海トラフ地震防災対策計画」を策定することとなっています。

旅館などの施設管理・運営者や石油類の施設管理者、鉄道事業者などで

ですが、これらの方々には津波からの避難確保や防災訓練に関する計画などを作成してもらいます。

東日本大震災では「釜石の奇跡」と呼ばれて迅速な避難ができました

のです。知識と行動は全く別物です。

どうやつて「逃げる」という習慣づけをするかが内閣府にとっての最大の課題になっています。

このため、避難訓練を国民運動として展開することをお願いしています。

不動産業界もぜひ取組みをお願いしたいと考えています。

地震による揺れ対策については、住宅などについては、平成27年までに9割という目標を立てています。

割と云う目標を立てています。

実は、東日本大震災では、建物の揺れによる被害はそれほど大きくありませんでした。もちろん、耐震化の成果もありますが、東日本大震災と

阪神・淡路大震災の揺れを比較する

不動産業界もぜひ取組みをお願いしたいと考えています。

地震による揺れ対策については、住宅などについては、平成27年までに9割という目標を立てています。

実は、東日本大震災では、建物の揺れによる被害はそれほど大きくあ

りませんでした。もちろん、耐震化の成果もありますが、東日本大震災と

阪神・淡路大震災の揺れを比較する

不動産業界もぜひ取組みをお願いしたいと考えています。

地震による揺れ対策については、住宅などについては、平成27年までに9割という目標を立てています。

実は、東日本大震災では、建物の揺れによる被害はそれほど大きくあ